

INFORMATION

『死、欲望、人形』

ピーター・ウェブ／ロバート・ショート 著
相馬俊樹 訳 国書刊行会発行
448頁 定価4,950円(税込)
「無理なポーズでこちらを向く少女は何も言わない。
ただキュルウ、キュルウと音がするだけ!」
—四谷シモン

日本の球体関節人形ブームのルーツともいべきシュルレアリスト、ハンス・ベルメール。英語の原書はベルメールを英語圏で紹介した評伝として評価されています。多数の図版を用いてベルメールの生涯と作品を解説。ベルメールの才能と狂気的なエロティシズムはどのように顕出していったのか。日本語で読むベルメール評伝の決定版。



ドールワールドリミテッド&ネイチャーアニマルワンダーランド

2021年11月28日(日)13時~17時
都立産業貿易センター浜松町館 (JR浜松町駅下車徒歩5分)
★当日配布の先行入場券(有料)をお持ちの方は11:30より入場
主催 ドールワールドNAW実行委員会
TEL 090-4541-5634(担当小川)
創作人形、テディベア、ぬいぐるみ、リップダクションドール、他あらゆる人形や材料の出展があります。
11月28日には、同じ都立産業貿易センター浜松町館の別階で「日本テディベアwithFriendsコンベンション」も開催予定です。

DOLL WORLD LIMITED & NATURE ANIMAL WONDERLAND

青山忌人形展

昔人形青山・青山恵一氏を偲ぶ毎年開催の人形展
2021年9月3日(金)~9月8日(水)会期中無休
13時~19時(最終日16時まで)
会場 昔人形青山(地下鉄北大路駅5分)
京都市北区小山東大野町69 TEL 075-415-1477
出品:石田百合・カタラカミカ・左川雅子・てらおなみ・Dollhouse Noah・中村趨・藤本晶子・紅紫紗貴ひなら・山吉由利子
◎特別ウェビナー開催
「今さら聞きたい!お人形のこと」
松乾齋東光(市松人形師)×森内憲(珈琲舎・書肆アラビク店主)
2021年9月8日14時
会期最終日に生配信するウェブ・セミナー。事前登録された方にZoomを通して配信します。参加登録の際に、人形についての質問をご記入ください。パネラーの二人がお答えします。
事前登録は下記専用ウェブサイトから
専用ウェブサイト <https://k1tribute.amebaownd.com/>
主催 青山忌実行委員会
問合せ TEL 0756002164(クラフトアート人形コンクール実行委員会)

計報

ヴェラ・ザイツェヴァ(ロシア)
MISOROGI人形展2019に初出品したロシアの作家、ヴェラ・ザイさんがコロナウイルスに感染し急逝されました。享年33才で、小さな二人のお子さんがいらっしゃいます。
愛らしく美しい、そして装飾に工夫をこらした人形を、本当に丁寧に作る方でした。寡作ですが、2019年に続き今年9月のMISOROGI人形展にも出品予定で、作品はほぼ仕上がっていたそうです。前途有望な作家だっただけに大変残念です。
ヴェラさんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

Instagram @vera_zai_

2019年 MISOROGI 人形展の出品作品



コヤアラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費2000円(更新時に2年分一括払いの方は3900円になります。)年4回、チーム・コヤアラのニュースレター「KOYAALA通信」が届きます。KOYAALA通信発行時期 3月1日、6月1日、9月1日、12月1日

お申込方法

ゆうちょ銀行の振替口座に年会費2000円をご送金ください。
口座名 チーム・コヤアラ
ゆうちょ銀行から 00140-7-358370
他銀行から 〇一九店(ゼロイチキョウ店)0358370
※電信送金の方は「〒番号・住所・お名前(本名)・電話番号」もあわせてお知らせ下さい。
・ご入金を確認ができれば、チーム・コヤアラ事務局から最新号と受領証を兼ねた会員証をお送りいたします。次号の発行が直近の場合は、翌号からお送りいたします。
・更新時には、有効期限となる号に更新のお知らせと振替伝票を同封してお知らせいたします。

DM 同封希望の方へ(次の発行日から3ヵ月の間に展覧会を予定されている方)事務局に枚数と×切をお問い合わせのうえ、発行日の10日前までにお送り下さい。発行後に請求書をお送りします。
同封料金 コヤアラ・クラブ会員2000円 一般(非会員)3000円

個人情報について

お預かりしている個人情報はチーム・コヤアラの事務局業務を担当する羽関オフィスが厳重に管理いたします。名簿は「KOYAALA通信」発送に使用させていただく他、チーム・コヤアラの趣旨に沿って有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用しません。チーム・コヤアラ以外の第三者が閲覧・使用することはありません。

チーム・コヤアラ事務局
189-0003 東京都東村山市久米川町3-27-57 羽関オフィス内
TEL 042-395-7547(担当 はげき)
URL <http://koyaala.jp> Email team_koyaala@yahoo.co.jp
KOYAALA通信 編集責任者 羽関チエコ
©KOYAALA TSUSHIN 2021, printed in Japan 本地記載の記事・画像の無断使用・転載を禁じます。

KOYAALA 通信 No.47

Sept. 2021

KOYAALA通信は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。発行日3月1日、6月1日、9月1日、12月1日

アンティークドール×現代創作人形展 (横浜人形の家)

—日本の創作人形の系譜—

文 羽関チエコ



長谷川裕子(左) レンチドール(右)



因間りか(左) 19世紀のスタイナー(右)



陽月(左) レンチドール(右)

現在、横浜人形の家で開催されている「アンティークドール×現代創作人形」展について、企画協力させていただきました。横浜人形の家にとって本展が本格的に創作人形展に取り組む初めての企画になるとのことで、18人の創作人形作家には館蔵のコレクションとのコラボレーション作品の出品をお願いしました。かなり限られた制作期間でしたが、出品者の方々がアンティークドールに対するオマージュ作品の制作に挑戦してくださいました。

この展示のために日本の創作人形の系譜を簡単にまとめた解説文が一般には公開されていないため、再編集したものをここでご紹介したいと思います。

1920年代~

日本の創作人形は欧米文化の影響を受けながらユニークな変遷を辿っています。

日本に最初に大きな影響を与えた西洋人形は、1920年代に上村露子がパリで出会ったブドゥワール人形でしょう。帰国した上村はブドゥワール人形を模した人形のマスクで特許をとり、その技法で作られる「フランス人形」「さくら人形」は全国に広がりました。日展や伝統工芸会における工芸的な創作人形と同等には評

価されませんでした。布の人形の流行は後に活躍する作家を輩出する基盤となりました。朝日新聞社が1949年から1968年まで主催していた「現代人形美術展」で「布の人たちは一番新しいことをやっていた」と、鎌倉市在住の人形作家、浜いさをは語っています(『DOLL FORUM JAPAN』25号/2000年6月)。そのなかから生まれたグループ展「グループ・グラップ」には辻村寿三郎、与勇輝、浜いさをなどが参加しました。

1970年代~

「現代人形美術展」は四谷シモンにとっても大きな関心事でした。しかし固定ポーズばかりの人形に違和感を覚えていたところ、1965年に澁澤龍彦が雑誌で紹介したハンス・ベルメールの人形の写真を見て衝撃を受けます。そしてそれまでの人形の材料や道具を捨て去り、1973年の初個展「未来と過去のイヴ」でヌードの球体関節人形を発表します。これに先立ち、澁澤龍彦は1968年に土井典にベルメール作品を模した「贗物の濫用」の制作を依頼しています。その後の流れを考えると、澁澤龍彦が文学や美術界のように日本の人形界にカウンタカルチャーをもたらしたと言っても過言ではないでしょう。

ベルメールは写真の被写体として人形を制作した美術家ですが、四谷、土井とも作品は「人形」として制作しました。それらの作品の衝撃は、人形を美術の言葉で語るべき領域に広げました。同時に人々はヌードが人形にとってタブーだったことを改めて知ることになりました。さらに80年代に活躍した天野可淡の球体関節人形の表情は従来の人形の無表情や笑みを超えて、悲しみや苦しみを感じさせました。これが多くの作り手にシンパシーを与えたのでしょう、可淡の作風に影響を受けた作り手が続出。人形の禁忌は次々に解かれていきました。

ビスクドール制作の普及

70年代までは布や木、桐塑が主流だった日本の創作人形の素材は布に代わって、80年代から90年代にかけて石粉粘土が流行しました（土井典はFRP）。一方で80年代にはヨーロッパのアンティークドールへの関心が高まっていました。レプリカドール制作の需要を受けて欧米でモールドや材料が販売されるようになると、日本でも輸入され教室を通してビスクドールの制作技術が普及していきました。三輪輝子は1978年に独学でビスクドールに取り組んで以来、オリジナルモールドによる創作ビスクドールを制作し続けていますが、まだ少数派でした。粘土で一点ものを直接成形する制作が主流だった日本の作家にとって、型による複数制作を前提としたビスクドールの考え方に慣れていないこともあったと思います。

当時の日本ではほとんどの球体関節人形が粘土で作られていました。イメージが先走るのか、粘土では仕上げの粗さが目立ち「創作」が重荷になっているような作品がよく見受けられました。そんな頃、恋月姫がビスクで人形を制作するようになります。ビスクの肌の透明感、繊細な造形や色使い、眠る姿や虚空を見つめるような眼差し、美しい衣装はその完成度の高さとともに、ファンの心を魅了しました。その影響で石粉粘土からビスクに転向する作り手が増えました。焼成を伴うビスクの職人的工程から仕上げの丁寧さが競われるようになりました。またファッションが主眼となっていくことで、ベルメールに始まる球体関節構造を目的化していた芸術性の呪縛から多くの作り手たちが解放されたと思います。

球体関節人形のエンターテイメント化

2004年に東京都現代美術館で「Dolls of Innocence 球体関節人形展」が開催されると、球体関節人形を知らなかつ

た世代が再評価することになります。同じ頃、ポークス社の球体関節人形キットのスーパードルフィーが世界的に流行し、ブライスやmomokoなど成人をターゲットにしたファッションドールのブームも起こりました。量産の「ドール」はアニメやマンガにおけるキャラクターと同じ感覚で、気楽に楽しめます。スーパードルフィー誕生の背景に日本の球体関節人形の誕生の系譜があったとしても、現代の人々がドールに求めるものは遊び、エンターテイメントでしょう。

このブームを背景に、「ドール」という呼び方が一般化しました。当初は量産物の人形を「ドール」と呼んでいたのが、今は一点ものの創作人形も「ドール」と呼ばれます。最近では創作人形の公募展で、粘土を使って量産「ドール」似の一点ものの人形が出品されるという逆転現象まで起きています。

原点回帰

日本に西洋人形が定着してから1世紀、人形のタブーはタブーでなくなり、一般にもエロスやタナトスをめぐるイメージはエンターテイメントの次元にまでなじんでいます。あらためてこの時代に人形づくりに真摯に向き合うとき、作り手は古い人形を通して人形の原点を見直すようになっていのではないのでしょうか。本展はその視点に注目し、構成させていただきました。（文中敬称略）

「アンティークドール×現代創作人形」

横浜人形の家

2021年7月10日（土）～10月10日（日）

※毎週月曜日休館

出展作家（五十音順）

秋山まほこ、Uncreer、因間りか、小畑すみれ、尾花智子、月光社、恋月姫（下記画像作品）、佐伯祐子、高塚宏、Noe、長谷川裕子、坂東可菜、陽月、ヒロタサトミ、福永のりこ、水澄美恵子、三輪輝子、山吉由利子



※展示の様子を解説つきでYouTubeでご覧になれます。
（羽関オフィス制作）
<https://youtu.be/kLp6TxjNpAU>



1980年に美術大学を卒業し熊本の窯元に弟子入り。瀬戸で陶製人形の原型師を経て、現在は岡山で陶人形作家として活動しているさかいゆきみさん。最近、3年前の日記を見せて頂く機会がありました。自然に囲まれた環境での現在の暮らしにいたる経緯を綴ったこの春の日の思いは、制作の孤独を経験する方に通じる思いがあると思います。ご本人の承諾を得てここに転載させていただきました。



写真左
夏の展覧会に出品した作品
写真右
自宅の軒下で作業するさかいさん

※さかいゆきみさんの今後の展示予定
9月22日～28日 MISOROGI 人形展
11月1日～ 個展
工芸ギャラリー手児奈（名古屋）
さかいゆきみ Instagram
<https://www.instagram.com/sakaiyukimi4/>



2018年4月4日
つばめを数日前に見た。うぐいすも鳴いている。桜は散っている。季節にいつも置いていかれる。家にこもって何かに抵抗している。一步外に出ると楽しいよと自分に言う。ギャラリー梅（ギャラリーとが 岡山県和気郡）での個展は、8年前に乳がんの手術を急にすることになり直前にキャンセルして以来、やっと実現した。梅さんにやり直しのチャンスをいただいた。仕事の締め切りを守ることにいつも苦労していたのに、もう命の締め切りがきた、とってから8年たった。私が亡くなったら手元にあるのは失敗作だけ。遺作展もできない。前に作った作品を見たら恥ずかしくなるけど、その時の精一杯。今も精一杯作っているの、前の作品のほうが出来がよかったとしてもしかたない。せめて少しは作品を残しておきたい。この頃はいつも、これが最後かもと思って展示会をしている。好きな仕事をして暮らすことができてよかった。

今は分不相応と思うくらい、自分の家も車もある。食べるものも、水も畑もある。親に反抗して他県の芸術大学に入って以来、新聞配達やウェイトレスをして7年かかって大学を卒業し、自分にはこの仕事しかできないと思ってずっと焼き物作りをして、廃バスの下宿

にも20年以上住んでいた。新聞配達も楽しかった。バスの暮らしも楽しかった。貧乏性がしみついているけど、ローンを組んでこの家も40才頃買った。大きなガス窯を持っていることで、大家に「出ていってくれ」と言われるのが、もういやだったから。今年の冬は寝室も氷点下になった中古の家だけど、お風呂に入って湯たんぽを布団に入れば暖かい私の居場所。

陶器のお雛様をつくっているのに、我が家でお雛祭りができない。その時期はいつも節供人形作りに追われているから。紺屋の白袴？ 一人暮らしだけどせめて部屋を掃除してお雛様を置いてシンとした気分を味わいたい。親がお雛様を飾って願ってくれたことと私の人生は少し違うけど、その気持ちがうれしい。岡山の千手寺で大日経を教えてくださいなさっている北村太道先生から「心まで美しくするのではなくては、美ではない」と聞いた。なつかしくて素朴でホッとしてそばに置いておきたいものをつくりたい。昔の人形の真似でもいい。へたでもいい。できるだけ美しいものをめざしたい。私の目標は努力して作り続けること。持て余している「自分」と闘いながら。作っている時間がいとおいしい。それならやっぱり、なにも残せなくてもいいのだ。